

2011年9月6日開催 第561回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員
齊藤善也委員 佐藤卓己委員 佐藤友美子委員 東野博昭委員(書面参加)

■ 毎日放送出席者

河内社長 松島専務 榎本常務 豊田取締役 河村取締役 梅本取締役 東取締役
柚山ラジオ局長 島プロデューサー 立野コンプライアンス室長

◆ ラジオドラマ「罪と罰と人情と」(2010年11月21日放送)番組について審議した。

各委員の主な意見は次の通り。

- * 6人のしゃべる関西弁が非常に典型的な関西弁になっているだけに、かえって区別がつきにくくなっている。
- * オーディエンスがどういう形で、このドラマを聞くことを想定して、つくっているのか非常に気になった。
- * 表面的な議論しかなく、自分自身にもう少し近づけてみるような議論があれば、もっと深いものになったと思う。
- * 介護殺人をどう減らしていくかというのも一つのテーマだと思う。そういう視点には登場人物がなっていなかった。
- * 筋立てのところで混乱して、聞き終わってもすっきりしなかった。多分ラジオ番組を何回も聞き直す人はいないので、つらい気がする。
- * ポイントポイントで、まるで“場面に色を塗る感じ、でBGMが適度の音量で流れた、この演出はとても素晴らしかった。
- * いろんな要素を典型的なキャラクターに詰め込み過ぎた。そこはバランスを崩して、もう少し掘り下げてみればもっとおもしろかったと思う。
- * 音楽が少なく、6人の人たちの言葉のやりとりを通じて、その人生と家族が浮き彫りになり、胸に響く仕上がりだった。

◆ 報告事項

- 1) BPO 意見書に対する MBS の対応について、コンプライアンス室長が報告した。
- 2) アナログ放送終了・デジタル放送完全移行への対応について、メディア戦略担当の豊田取締役が報告した。

◆ 7 月例会の諮問事項に関する答申書及び付帯意見の内容

「番組種別基準」についての答申

毎日放送番組審議会
委員長 荒巻 裕

謹 啓

放送法改正に伴う「放送番組の種別の公表制度」について、平成23年7月5日開催の番組審議会にて「番組種別基準」案の諮問がありましたが、審議の結果、原案通りで妥当との結論に至りましたので、答申致します。

なお、委員お一人から今後の番組分類に役立ててほしいとの意見が寄せられましたので、別途添付いたします。

謹 白

「放送番組の種別の基準」に関する番組審議会委員の意見

『①教育/教養の区分は民間専門教育局や準教育局が存在した1960年代には意味があったとしても、教育局がNHK第二放送をのぞいて一般局になって以降は無意味な区分だと思えます。それゆえ、実際の区分がどのように行われるか先行きが見えません。②「教育番組」の定義中にある「社会教育」は現在の教育学会では一般に「生涯学習」と置き換えられているものだと考えます。「社会教育」という言葉も、古い概念で今日何を意味するのか不透明です。』

以上